

令和8年度 都城島津邸 年間行事予定表

	展 示 (伝承館)	イ ベ ント	
4月	<p><b>収蔵史料展「都城と都城島津家」</b> 3月28日～6月28日 都城島津家に伝来した史料を用いて、都城島津家が誕生した南北朝時代から明治維新を経て、明治・大正時代までを主に、都城島津家と都城の歴史的関わりについて紹介します。 ※途中、展示替えがあります。</p>  <p>伊達政宗書状 (都城島津邸所蔵)</p>	<p>5月5日(日) <b>島津de端午!</b></p> <p><b>五月人形展</b> 4月中旬～5月中旬</p>	
5月			
6月			
7月	<p>展示替え(6月30日～7月10日)</p>		
8月	<p>都城島津伝承館企画展 <b>「イロイロー色彩に見る都城の歴史ー(仮称)」</b> 7月11日～9月27日 都城島津家伝承史料には、歴代領主肖像画や屏風、襖絵をはじめ、刀装具・馬具・薩摩藩の武士ならではの道具類とそれに付随する意匠画が含まれています。これらの史料群は、粋を凝らしたデザインと色彩が施されており、都城島津家の文化的素養の高さが伺えます。 古来から、「色」は人々の生活に深く根付いており、芸術文化の発展に大きく影響を与えてきました。 武家社会においても色は重要な意味をもっており、鎌倉時代以降に信仰を集めた「勝色」や戦国時代の武田家「赤備え」等、戦勝を願う武士の心理を反映した伝統色が甲冑や武具に積極的に用いられてきました。また、近世に至っては、江戸における絵画・芸能等の文物の流行発展により、独自の美意識に基づく色彩の流行が見られました。 本展では、「色」をテーマに、都城島津家伝来の美術工芸品や武具類を通して、制作当時の社会情勢や制作意図、絵師・職人の置かれた職制構造等の歴史を辿る中で、各資料に用いられた色彩が果たした役割を紐解きま</p>  <p>茶地龍文陣羽織 (都城島津邸所蔵)</p>	<p>企画展イベント</p> <p><b>島津de秋の陣</b></p>	
9月			
10月		<p>展示替え(9月29日～10月9日)</p>	<p>10月18日(日)特別展講演会</p> <p>10月24日(土) 新市誕生20周年 記念公演「よみ語り」</p>
11月	<p>市誕生20周年・島津荘誕生1000周年記念令和8年度都城島津伝承館特別展 <b>「都城島津氏の歩みと新『都城市』」(仮)</b> 10月10日～11月23日 平成18年(2006)1月1日に誕生した新「都城市」は、都城盆地の大部分を市域に含んでいます。この都城盆地において、南北朝時代から江戸時代にかけて大きな影響力をもったのが都城島津氏(当初は北郷氏)でした。 令和8年度は、新市誕生20周年とともに、島津荘誕生1000周年を迎える記念の年にあたります。そこで、平安時代末期から江戸時代初期に至る都城島津家の歴史を、現在の市域の成立に与えた出来事や中央政権との関わりを焦点をあてながら、国産・重要文化財を含む展示史料とともに紹介する展覧会を開催します。</p>  <p>国宝 島津家文書 「明見(樺山資久)書状」 (東京大学史料編纂所所蔵)</p>	<p>菊花展</p> <p>11月15日(日) <b>茶道裏千家淡交会「月」</b></p> <p>11月23日(月・祝) <b>島津発祥まつり</b></p>	
12月		<p>展示替え(11月25日～12月4日)</p>	<p>12月中旬 <b>御入部記念イベント</b></p>
1月		<p>展示替え(12月5日～令和8年3月7日) 都城島津家に伝来した史料を用いて、都城島津家が誕生した南北朝時代から明治維新を経て、明治・大正時代までを主に、都城島津家と都城の歴史的関わりについて紹介します。 ※途中、展示替えがあります。</p>  <p>展示の様子</p>	<p>正月飾り</p> <p><b>ひな人形展</b> 2月中旬～3月上旬</p>
2月		<p>古文書講座</p>	
3月	<p>展示替え(3月9日～3月19日)</p>		

※各種催事については、会期や時期・内容が変更になる場合があります。詳しくは都城島津邸ホームページ、市広報でご確認ください。

都城島津邸

〒885-0055 宮崎県都城市早鈴町18街区5号  
TEL 0986-23-2116 FAX 0986-36-4019



都城島津邸  
Miyakonojō Shimazū Residence